

こはたあつこ 履歴書

東京生まれ。アメリカとカナダで育つ。バイリンガルであることを生かし、テレビ、ラジオの司会やコメンテーターとして 30 年近く出演。NHK 国際局海外向け番組で英語キャスターを務めたり、NHK の英語教育番組などに出演する。その後、TBS「王様のブランチ」で初代映画コメンテーターに抜擢されたことから、数多くのハリウッド・スターや監督にインタビューを行うようになる。まだハリウッドスターのインタビューが珍しい時に、トム・クルーズとレスリングをしたり、ロビン・ウィリアムズとアドリブで演技をしたりと、その楽しいインタビューは当時注目を集めた。



2004 年アカデミー賞に魅せられ、ロサンゼルスに移住。以後、ハリウッドの映画業界の様々な情報を日本に伝える。110 年以上の歴史があるアメリカの映画誌 Variety の日本語版の編集記者もつとめる。また、演技とスタンドアップコメディの勉強も始め、ロスのコメディークラブでスタンドアップコメディやワンウーマン・ショーにもチャレンジした。

ロサンゼルスでは、日本映画やクールジャパンのイベントなど、日本のイメージアップにつながるイベントの英語司会も行った。それがきっかけで日系企業の重役などから、英語スピーチの指導を依頼されるようになる。あるクライアントには、安倍元総理を招いたイベントの、司会挨拶をする時のコーチングを行った。また、別のクライアントには、アメリカ人従業員の前でインパクトのあるスピーチを行いたいと希望したため、彼がファンであるブルース・リーの動きをスピーチに取り入れてもらった。

多くのスピーチを聞いた結果、「英語が母国語でない場合、ネイティブのような流暢な英語でスピーチをする必要は無い。また、欧米人のジェスチャーを真似る必要もない」と思うようになった。今まで強く印象に残ったのは、内気な日本人の女性のシンプルな英語のスピーチだった。しかし、その女性がたんと話す内容に心打たれた経験がある。そのため、スピーチを教えるときは、生徒やクライアントの個性を引き出し、それぞれにあったスタイルを見出したいと思っている。

父の他界後、15 年のロス生活に終止符を打ち、母の介護のためにイギリス人の夫と共に東京に戻る。

2021 年の夏、東北大学の Tohoku Forum for Creativity (知の創出センター)で、世界から集まる若手研究者や科学者のための英語のスピーチのコーチング・プログラムを作成。生徒たちの目標は 2021 年の国際的な研究発表コンテスト「Falling Walls Lab Sendai」で、研究成果を英語で発表すること。レッスンでは、専門用語が飛び交う「論文調」のスピーチを、一般人の興味を引くものに変えていった。その結果、今年の Falling Walls Lab Sendai の 1 位、2 位、3 位と観客賞は、すべてレッスンの受講生が受賞した。

今後の目標の一つは、より多くの日本人が世界にむけて英語で発表できるようにサポートすること。また話し手としては、様々な形で異文化交流に貢献したいと思っている。